



助けを必要とする人々を支援する

2023年 年次報告書
末日聖徒イエス・キリスト教会



目次

- 3 大管長会からのメッセージ
- 4 与える決意
- 5 地域社会での奉仕
- 6 世界の進歩は
女性と子供から
- 8 行動する教会員
- 10 人に奉仕する宣教師
- 12 JustServe (ジャストサーブ)

全世界での取り組み

- 14 取り組みの概要
- 16 災害時の救援活動
- 18 きれいな水と公衆衛生
- 19 教育
- 20 雇用
- 22 環境に対する管理責任
- 23 医療とモビリティ（歩行補助器具
支援）
- 24 飢えに苦しむ人々への食事
- 26 住宅支援
- 27 メンタルヘルス
- 28 自立

全世界での援助

- 30 アフリカ
- 32 アジア
- 34 オーストラリア, フィ
リピン, 太平洋地域
- 35 カリブ海諸国
- 36 中央アメリカと南アメリカ
- 38 ヨーロッパ
- 39 中東
- 40 北アメリカ

感謝の言葉

参考文献

表紙（上から時計回り）：子供たちの宿題を見ている若い男性。香港の母娘。視力の治療を受けるインドの家族。夕暮れ時にほほえむ若い女性。台風マワルの被災地を清掃するグアムの教会員。寄付されたシェルターの資材の上に座るイエメンの子供。きれいな水で水しぶきを上げる子供たち。写真／ShelterBoxの厚意により掲載。子供を抱いて栄養状態の検査を受ける母親。写真／世界食糧計画の厚意により掲載。



上ーラッセル・M・ネルソン大管長と二人の顧問、ダリン・H・オークス管長とヘンリー・B・アイリング管長

愛する友人の皆さん、

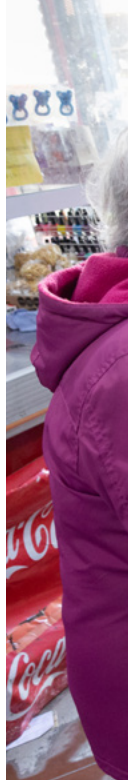
イエス・キリストは、地上におられたときに二つの大切な戒めを与えられました。神を愛し、「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」という戒めです（マタイ 22：39）。わたしたちは神への愛を示そうと努めるとき、自然とほかの人たちの幸福を心に願うようになります。キリスト御自身が、病人を癒し、飢えた人に食べ物を与え、裸の人に着せ、弱い者の世話をすることによって、隣人を愛する模範を示されました。

助けを必要としている人を支援するという神聖な業を続けるわたしたちの活動の報告を、へりくだりお伝えします。この年次報告書には教会員を助けるために提供しているリソースやサービスを掲載しましたが、世界中のすべての神の子供たちに対して行われた人道支援活動についての記載に、さらに多くのページを割いています。イエス・キリストに従う者として、この人道支援活動は義務であり、喜ばしい特権であると、わたしたちは考えています。わたしたちは、教会員や友人、その他信頼できる組織からささげられた時間と手段、無私の働きのおかげで、この支援活動を進め、拡大することができたことを、心より感謝しています。

わたしたちは、神がすべての子供たちを愛しておられることを信じ、そのことを確信しています。神の救いの業を遂行する善良な人々が至る所において、隣人の世話をし、助けを必要としている人々を慰めています。互いに愛と奉仕の手を差し伸べ、主がこの偉大な業を引き続き祝福してくださるようにと祈ります。

大管長会

Russell M. Nelson *Dallin H. Oaks* *Henry B. Eyring*



ケニアのイフォ難民収容所の人々は、世界食糧計画と末日聖徒イエス・キリスト教会との共同プロジェクトを通して支援を受けました。

「個人的にそっと行って、社会の片隅にいる傷ついた人、痛みを理解してもらえていない人、孤独な人、虐げられている人、空腹な人を見つけては、最善を尽くして彼らを支援する人々に、わたしは敬意を表します。」

—パトリック・キアロン長老
十二使徒定員会¹

与える決意

末日聖徒イエス・キリスト教会は、助けを必要としている神の子供たちを支援するよう努めています。助けの必要な子供たちは増える一方です。この支援は、福祉と自立支援の取り組み、人道支援、ボランティアの奉仕という形で行われます。

福祉活動と自立支援活動

福祉活動と自立支援活動は、おもに教会員のために行われており、断食献金からの支援、食料品の注文、教育プログラム、職業支援サービス、情緒的健康支援などを行っています。

人道支援活動

助けを必要とする人々を支援する教会の働きは、人道支援活動の分野で大きく発展しています。教会は資金と物資を提供することによって、何千もの人道支援プロジェクトを支援しています。それらのプロジェクトは、人種や国籍、所属する宗教団体にかかわらず、世界中の何百万人もの神の子供たちに恩恵をもたらします。

ボランティアによる奉仕

教会員や友人による慈善奉仕は、福祉活動と自立支援活動、人道支援活動の重要な要素です。ボランティアによる奉仕は、その地域に住む助けを必要とする人たちをも助けます。「互いに重荷を負い合 [い] ……悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰め」(モーサヤ 18:8-9) のです。これは、イエス・キリストのような者になるうえで欠かせない、大切な部分です。



左：近所の人の食品の買い出しを手伝うという奉仕をしている、アルゼンチンの若い女性。右：一緒に庭仕事をする日本女性。

地域社会での奉仕

モーサヤ書 2 章 17 節からは、「あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもおさず、あなたがたの神のために務めるのである」ことが分かります。助けを必要としている人を支援するという基本原則に従うことにより、わたしたちは同胞に仕え、神に仕えるという気高い目標を達成することができます。

全世界には助けを必要としている人がたくさんいますが、自分の家族や近所、地域社会のために働くときに起こる変化ほど、効果的で永続するものはありません。どのような立場で奉仕する場合も、以下の原則を考量してください。

1. 必要を見極める

どの地域社会にも、助けを必要としている人はいます。

- 隣人や教会指導者に、奉仕の機会を提供する機関がないか尋ねてください。
- 地元地域にある非営利団体について学びましょう。JustServe.org（ジャストサーブ）が利用できる地域では、それを使って、お住まいの地域にあるプロジェクトや非営利団体を見つけてください。

2. 良い関係を築く

奉仕は、生い立ちや宗教が自分とは異なる人たちと力を合わせて行うほど、うまくいくことが多いです。皆さんが奉仕している人は皆、状況はどうあれ、理解と愛と敬意に値する神の子供なのだとすることを忘れないでください。

- プロジェクトではなく、人を大切にしてください。

- 自分の思い込みを払拭し、偏見を脇に置いて、助けようとしている人たちが直面している障壁をほんとうの意味で理解する努力をしてください。
- 自分の信仰を行動で表し、第一の目標は人を助けることだということを覚えておいてください。善い行いで信仰を示しましょう。

3. 計画を立てる

差し当たり必要なことを行いつつ自立していけるような方法を計画してください。次のような質問をして、奉仕を受けている人にも、解決策を考えてもらいます。

- この必要に対処するため、あなたはこれまでに何を試みましたか？
- 試してみたいことはありますか？
- どのように、いつ、どこで支援を受けたいですか？

4. 経験を伝える

奉仕が自分やほかの人にどのような影響を与えたかを話すことで、人々を行動に駆り立てることができます。

- 日常の会話の中で、奉仕の喜びを人に伝えてください。一緒に奉仕するよう誘いましょう。
- ソーシャルメディアで、人道支援活動によって自分や奉仕した人たちが祝福を受けていることを、例を挙げて話してください。
- 支援している非営利組織をフォローし、自分の奉仕のストーリーにタグ付けしてください。



子供を抱き締める母親



女性と子供に的を絞った人道
支援プロジェクト 921 件

女性と子供に的を絞ったプロジェ
クトの影響を受けた国 114 か国

「より深い知識とリソースがあれば、[愛ある親は] 状況を変えることができますし、その影響力を後々まで残ることができるのです。」

一カミール・N・ジョンソン会長
中央扶助協会会長²

世界の進歩は女性と子供から

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、神を愛し、隣人を愛するようという救い主の二つの大切な戒めに従うべきであると信じています。この戒めに従いながら、わたしたちは最大限に影響力を発揮して、助けを受ける人たちだけでなく、その家族や地域社会にも祝福が及ぶようにしようと努めています。

このパターンを発展させるために、わたしたち末日聖徒イエス・キリスト教会は全世界で女性と子供のケアを最優先することがきわめて重要であることを認識しています。一人の女性を助ける場合、わたしたちはその女性の子供と地域社会の生活に祝福をもたらす手段を提供します。子供たちの世話を優先的に行うことにより、わたしたちは将来に投資しているのです。そして、この作業に男性と父親がかかわるようになると、家族や地域社会全体が堅固なものになっていきます。

小児の栄養ケア

2023 年、教会はあらゆる背景のすべての子供の栄養摂取を優先させており、ヘレン・ケラー・インターナショナル、カトリック救援サービス、セーブ・ザ・チルドレン、ハンガー・プロジェクト、ユニセフ、世界食糧計画など、信頼できる団体に惜しみなく献金しました。この献金により、世界中の何十万人もの子供や母親が栄養価の高い食物の支給や予防接種その他の医療を受けることができました。

これらの献金に加えて、教会は、小児期の栄養不良の危険にさらされている教会員の子供たちを助けることを目的とした独自の栄養プログラムを実施しました。教会はまた、地域社会に耕作地を作り、世界の数か所に子供の栄養状態の検査をすることのできる機器を寄付しました。



ケニアの難民キャンプで栄養のある食事を支給される母親と子供。写真 / 世界食糧計画の厚意により掲載。

妊産婦と新生児のケア

2023年、教会は、妊産婦と乳児の死亡率を下げ、母親と乳児のケアを改善する取り組みを行いました。ユニセフと連携して、教会は中央アフリカ共和国、ハイチ、マリ、モザンビークの母親と子供の健康基盤を改善し、予防接種を提供することができました。

ガーナ、フィリピン、そのほか全世界の数地域において、教会は集中治療下にある新生児の治療を行う医師の使う新生児医療用の器具を寄付しました。アメリカ合衆国では、全米黒人地位向上協会 (NAACP) と協力して MyBaby4Me プログラムに資金を提供して同プログラムを実施し、新生児の扱い方を学ぶ機会を妊婦に提供しました。

これらの取り組みは、妊産婦の死亡率を下げ、長期にわたる合併症のリスクを減らし、全世界の未熟児や重篤な病状の新生児の救命率向上に貢献しています。

教育

2023年を通じて、教会は世界中の様々な状況下にある女性と子供の教育改善を引き続き最優先事項にしていました。

その他の取り組みとして、教会はペルーのアレキパでカリタスと協力して、世帯主となっている女性の自立できる能力を伸ばしました。このプロジェクトで女性たちは職業訓練を受けて新しいスキルを伸ばし、家族を養う能力を身につけることができました。教会はまた、教室の改修工事ができるように支援し、世界中の子供たちに教育の機会が与えられるようにするために機器を寄付しました。

奉仕の機会

教会が行っている地域社会での女性の活躍の範囲を広げるもう一つの方法は、女性が奉仕を行う機会に参加しやすくすることです。これはおもに、教会の女性の組織である扶助協会を通して行われています。この組織は、助けを必要としている個人や家族の世話をするという任務を果たすために設立されました。世界中の集会所に会員がいる扶助協会は、地元の地域社会で草の根活動を組織するという独自の立場を取っています。この組織は、地元の組織やほかの宗教団体の女性と提携して、助けを必要としている人のために最も大いなる善を行うことができる機会を女性たちに与えています。

家族と地域を 強固なものにする

子供の健康と幸せの促進は、家族全員の問題でもあります。家族を強め、自立を育む努力はすべて、子供たちの生活と、ひいては地域社会の将来に良い影響を与えます。2023年、教会は何千もの人道支援プロジェクトを実施し、学習リソースとプログラムを提供し、助けを必要としている人々を支援する取り組みに世界中の会員に参加してもらいました。これはすべて、教会員のみならず神のすべての子供たちを高め、強めるという目的で行われています。親や養育者にこの支援を提供するに当たり、わたしたちは子供たちがたくましく成長するのに必要な養育をするために、より良い家庭を築くのに必要なものを提供するようにしたいと考えています。



台風マワルの被災地を清掃するグアムの教会員。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、神を愛し、隣人を愛するようという救い主の二つの大切な戒めに従うべきであると信じています。会員はミニスタリングを通して愛を示します。

ミニスタリングとは、だれかの必要を知り、その必要にこたえるという意味です。地元の教会の人々にミニスタリングを行うことに加え、わたしたちは地域社会での奉仕やその他のプロジェクトを通じて、信仰を異にする人々に奉仕する機会を祈り求めています。

わたしたちは、場所、人種、国籍、性別、宗教的信条、あるいは政治的所属を問わず、また見返りを期待せず、助けの必要な人々を支援することにおいてイエス・キリストの模範に従おうと努めているのです。

行動する教会員

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、助けを必要とする人の世話をする取り組みにおいて果たすべき重要な役割を担っています。神を愛し、隣人を愛するという聖約の一環として、教会員は月に1度、一日断食をして、食べなかった食事の代金に相当する金額を惜しみなく献金し、困っている人や家族のために使ってもらえるようにします。

それに加えて、教会員は隣人や地域社会にミニスタリングを行い、主の子供たちを助けるためのリソースである主の倉に蓄えられている、時間や才能、思いやり、物資、金銭を提供しています。

災害時の救援活動

災害が起こったとき、教会員は、置かれている状況や宗教にかかわらず、影響を受けた人々を助けるために時間とエネルギーをささげることがよくあります。例えば、ニュージーランドでは、ハリケーンガブリエルの被災地の清掃を、会員と宣教師は近隣の人たちや地域社会の人たち、行政派遣のグループと協力して行いました。韓国では、北忠清州で洪水が大きな被害を与えたとき、教会員たちはすぐに奉仕を申し出ました。成人と青少年のボランティアは協力して、壊れた家具を家から出し、がれきを撤去しました。

扶助協会

2023年、教会の女性たちは世の中で善を行う大きな力となりました。西アフリカでは、扶助協会の女性たちがガンビアのイスラム教徒女性グループ「ダイナミック・シスターズ」と共催で環境清掃プロジェクトを行いました。ペルーの扶助協会の会員たちは、リマで壊滅的な洪水の被災者たちに食料や水、トイレトペーパー、衣類を集めて送りました。



時間をささげてボランティア活動を行い、地元のデゼルト産業の店舗で寄付品を仕分けしている若い男性。

ヤングアダルト

教会のヤングアダルトは、困っている人に慈善奉仕を行う素晴らしい能力を持っています。例えばユタでは、何千人ものヤングアダルトが集まり、「万食プロジェクト」の食事セットを作りました。献身的な奉仕を通して、このヤングアダルトたちは、お腹を空かせた子供たちに食事を提供するために100万食を詰めるというユタフードバンクの目標達成に貢献したのです。

ベルリンでは、700人以上のヤングアダルトの会員と地元の人たちが、2023年スペシャルオリンピックスを応援する全ヨーロッパ奉仕大会に結集し、障害のある人々のためのスポーツイベントを実施するために、日中はボランティアとして奉仕しました。

子供と青少年

奉仕は、子供と青少年が教会の中で一致する力となります。例えばパナマでは、教会の初等協会というプログラムの会員が、「SOS子供の村」を訪れました。彼らはこの施設の子供たちと遊び、平安と希望のメッセージを分かち合いました。同様に、ハワイの10代の教会員マリエルは、ミス・ティーン・フィリピン・ハワイという立場を活用して、困っている100人以上の生徒のために学用品を集めたのです。

アメリカ合衆国では、教会の青少年が地域社会で奉仕を行うためにクラブを作りました。ダラスとティアナンはコロラド州の学校でそのようなクラブを始め、複数の信仰団体から集まった10代の若者たちを何十人も引き込みました。2023年のそのほかのプロジェクトの中でも、このクラブは地域の庭園の維持管理を手伝い、ホスピス患者のために羊毛の毛布を作り、地域社会の中に駆け込み寺を必要とする人を助けました。

「皆さんの周りを見て下さい。どこで働けばよいのでしょうか。どこで愛せばよいのでしょうか。あなたはどこで奉仕できますか。なぜなら、神が皆さんをそこに置かれたのは理由があって、そこに使命と目的があるからです。」

—クリスティン・M・イー姉妹
中央扶助協会会長会第二顧問³

多くの教会員は地元の地域社会で奉仕していますが、中には、さらに多くの時間を人道支援活動に充てることを選ぶ人もいます。多くのシニア夫婦とヤングアダルトはパートタイム奉仕宣教師の役割を果たし、地域社会で助けを必要としている人々を支援するためのプロジェクトを組織し、参加しています。

夫婦は、フルタイムの福祉・自立宣教師として奉仕するという選択肢があります。こうした夫婦は、割り当てられた地域における人道支援プロジェクトの運営に自分たちの時間をささげています。

フルタイムで伝道する宣教師も、救い主について教える働きとは別に、教え導く務めの一環として奉仕プロジェクトに参加しています。こうした宣教師は、緊急事態が発生した際に緊急対応の取り組みを支援します。

「主の教会にあって、主と互いに対して奉仕するようにとの呼びかけに応じると、思いやりと能力と謙虚さが増し加えられる機会がもたらされます。」

ーゲレット・W・ゴング長老
十二使徒定員会⁴

奉仕する宣教師

奉仕の取り組み

伝道中、宣教師は様々な割り当てで奉仕する機会があります。例えば、職業支援サービス宣教師は、教会内の人々が就職できるよう備え、働き口を見つけられるよう助けます。宣教師は教会所有の果樹園や農場、ビショップの倉、暫定支援サービス事務局で奉仕する場合もあります。人道支援活動や調整プロジェクト、地元の非営利団体への奉仕を行っている宣教師もいます。

災害時の救援活動

毎年、災害その他の緊急事態によって何百万人もの被災者が出ます。宣教師は、このような不測の事態が起こったときに支援を求められることが多々あります。また、被災者に惜しめない奉仕をして、彼らが希望を取り戻せるよう助けます。

例えば、エクアドルでは、エスメラルダス州で発生した深刻な土砂災害の被災者を助けるために、宣教師は最大3時間かけて現地に行きました。彼らは通りから土砂を撤去し、豪雨で被災した家や家財から泥を撤去する作業を手伝いました。

ゲラムでは、宣教師が台風マワルの被災地に行き、暴風雨によって家屋が倒壊し、地元事業の継続が不可能になった地域で、ほかのボランティアと協力して災害援助を行いました。がれきを撤去し、はがれた屋根を修復し、根こそぎ倒れた木を片付け、飲料水を配付し、救援活動の調整を行ったのです。また、多くの人が災害で身の回りの物を失っていたため、清潔な衣類を配付する作業も手伝いました。

地域社会での奉仕

宣教師はまた自分の住んでいる場所でも、教え、奉仕しながら、地域社会のために、時間と労力をささげて奉仕します。こういった活動は、困っている人を助け、様々な方法で地域社会を住みよい場所にすることに貢献しています。例えば、ワシントンD.C.では、専任宣教師がスミソニア民族祭で奉仕しました。宣教師が奉仕したこの民族祭は、現代の文化の伝統について地域社会の人々を啓もうし、信仰や背景の異なる人々を一つにするのに貢献しました。

パナマでは、宣教師は奉仕の日にはほかのボランティアたちと結集して、海岸のゴミ拾いや、食料その他の必需品の収集、個人用衛生キットの配布、老人ホームでの奉仕などを行いました。

ディーン長老はネバダ州のブラインドセンターで施設のメンテナンスを行い、地域社会のために奉仕しています。ディーン長老は言います。「わたしは残りの生涯を、自分のことだけをやるのではなく、ほかの人のためにささげたいと思っています。」⁵



上: 箱詰めして運ぶ女性を手伝うフランスの姉妹宣教師たち。左: 教会のグローバル配送センターで奉仕する奉仕宣教師。右上: 女性の四人に 12 段階のプログラムを指導するシニア姉妹宣教師。右下: ユタ州の教会史跡周辺の造園を手伝うシニア宣教師。

JustServe (ジャストサーブ) を利用できる国: 17 国

2023 年に JustServe に追加された新しい組織: 2,037

JustServe (ジャストサーブ)

JustServe (ジャストサーブ) は、地域社会に平和と愛と一致を築く運動です。個人やグループを地元のプロジェクトに結びつけて良い影響と結束を促し、善い行いを一緒に行うことを通して人に希望を与えます。JustServe (ジャストサーブ) を利用して奉仕すると、様々な組織、学校、宗教団体が容易に協力できるようになり、有意義な変化が生まれ、奉仕の精神が育まれます。

年齢に関係なく奉仕する

エバン (10 歳) は、地元のフードバンクのジャムが底を突いてきたことを知り、直ちに行動を起こしました。そして母親に助けをもらいながら、ジャムやゼリーの寄付を友達や家族に呼びかけるビデオを作ったのです。このビデオはソーシャルメディアで瞬く間に拡散しました。エバンの学校の仲間たちも参加してコンテストを企画し、どのクラスがいちばんたくさん集められるか競争しました。生徒たちの反応はすさまじく、最終的に 702 個の瓶が集まりました。このエバンの話から、年齢に関係なく、一人の人が与える影響は大きなものになり得ることが分かります。

自宅での奉仕

5 月のアルバータ州の山火事の際、地域の会員たちは JustServe を使って地元の指導者や役人と協力し、避難した住民を支援しました。アルバータ州中部の JustServe スペシャリストであるサラは、JustServe.org の山火事災害復興の専用ページを使って円滑に連絡を取り合っ調整することができるようになりました。その結果、被災した住民たちは必要な支援を受けることができましたが、寄付の多くは居住地外の人々から送られてきたものでした。

隣人に奉仕する

2023 年にマターナル・アウトカムズ・マター・シャワーズ (MOMS) ツアーがアメリカ合衆国各地を訪れ、ボランティアたちは JustServe プラットフォームを使ってボランティアの活動の調整を行いました。A Chance to Learn や CocoLife. Black といった地元の組織と協力して、複数の都市で奉仕する JustServe ボランティアは、都市内の地域社会で妊婦を対象に「ベビーシャワー」〔訳注: 新生児の必需品を母親にプレゼントする活動〕を行いました。その結果、これらの母親たちによる地元施設の利用が活発になり、そのため妊婦と乳児に良い影響が出てきました。

わたしにできること

- お住まいの地域社会でボランティアを募集している組織を調べます。
- JustServe があなたの地域で利用できるかどうか確認してください。
- JustServe.org にアクセスして登録し、運動に参加しましょう！

「JustServe. は、わたしたちが聖約に従って生活し……〔そして〕地域社会を祝福し、強めることができるようにするための運動であり、方法です。」

—ジェラルド・コセービショップ
管理ビショップ⁶



左: 地域社会で JustServe プロジェクトに参加する、いろいろな宗教団体の女性たち。右: エバンと学校メートは学校でジャムやゼリスを寄付して集めました。



ガーナのリベリア難民キャンプで教育を受ける子供たち。写真/マシュー・ケアズ財団学校の厚意により掲載。

全世界での取り組み

「奉仕をしているとき、わたしたちは自分のことをあまり考えません。そのようなとき、聖霊は早くわたしたちを訪れ、慈愛の賜物を授かるための生涯をかけた努力に助けを与えてくださいます。」

—ヘンリー・B・アイリング管長
大管長会第二顧問¹

2023年取り組みの概要



4,119

2023年度に行われた人道支援プロジェクトの件数



13億6,000万
ドル

支出金額



620万

ボランティア活動を行った時間



191

奉仕を行った国と地域の数

支出に含まれるもの

一般に提供する奉仕

- 世界規模の人道支援プロジェクト
- 食物およびその他の物品の寄贈

おもに教会員を対象に提供されるサービス

- 断食献金による援助
- ビショップによる物品の注文
- 福祉および自立支援事業からのサービス

奉仕時間に含まれるもの

- 教会福祉施設および自立支援施設におけるボランティア活動（ビショップの倉、缶詰工場、農場、果樹園、雇用センターなど）
- 多くの国々の助けを必要とする人々を支援する務め
- 災害後の清掃など、教会主催の地域奉仕プロジェクト

「もちろんこれらの数字には、わたしたちが実際に提供し、支援したすべてが反映されているわけではありません。召しの中での互いのミニスタリングや、会員同士の自発的な奉仕など、会員の個人的な奉仕は含まれていません。また、報告書には、教会の会員が教会と公式のつながりのない無数の慈善団体を通じて個人的に行っていることについても記述がありません。」

—ダリン・H・オークス管長
大管長会第一顧問⁸

2023年一覽



助けを必要とする人々を支援する
会員と宣教師による奉仕

7,959,670

全世界の扶助協会会員数

11,368

福祉・自立宣教師の数



JUSTSERVE (ジャストサーブ)

地域社会での奉仕を可能とするプラットフォーム

119,461

JustServe の新規登録ユーザー数

17,502

JustServe による新規プロジェクトの数



全世界での援助

全世界での人道支援の取り組み

206

飲料水、衛生、公衆衛生プロジェクト

415

災害時の救援活動プロジェクト

601

医療プロジェクト

64

モビリティ（歩行補助器具支援）プロジェクト

530

食糧安全保障プロジェクト



自立を育む

プログラムと奉仕

530

教育プロジェクト

10,112

デゼルト産業で働いた人数

2,926

依存症立ち直り週例集会の開催数

110,019

自立グループ参加者数



左：山火事災害の救済のために寄付された物資を運ぶマウイ島の教会員。右：フロリダのハリケーン救援物資を受け取るボランティアたち。

災害時の救援活動プロジェクト 415 件

支援を受けた国 94 か国

難民を支援する緊急支援プロジェクト 113 件

災害時の救援活動

危機的局面で救援物資を提供することに関して言えば、多くの場合、被災者の物理的な援助を中心に行います。しかし、彼らの情緒的な問題も見逃さないようにすることが大切です。末日聖徒イエス・キリスト教会は、災害のすべての被災者に物理的な援助と心理的な援助の両方を提供することを目指しています。

情緒的および心理的な助け

昨年、マウイ島のラハイナ地域は山火事で壊滅的な被害を受け、ほとんどの住民が家を失いました。教会は緊急避難所を提供することに加えて、被災した教会員に心の応急処置を施すためにファミリーサービスのカウンセラーを送りました。カウンセラーたちは、家族や家を失い、ほかの人々が苦しむのを目の当たりにした人々を慰めることができました。

ウクライナでは、ファミリーサービスが戦争の被害を受けた人を対象にオンライン情緒支援セミナーを行いました。セミナーでは、戦争の生存者に健全な対処法と、緊急時に冷静さを保つ方法などをテーマに教えました。また、心的外傷後ストレス障害に関するオンラインフォーラムも提供しました。

ファミリーサービスはまた、情緒的な備えのためのヒントや情緒的なレジリエンスを通して備えるためのリソースを教会指導者と会員に提供する努力もしました。これらのリソースは、情緒的な備えをして人生の問題や緊急事態に備えるのに役立ちます。

わたしにできること

- 支援する組織を通して認定ボランティアになり、非常時対応に必要な状況で奉仕できるようになる。
- 緊急時に備えて自分自身の緊急時対応計画を立てる。
- 地元の難民支援の非営利団体に問い合わせ、どんな支援ができるかを確認する。



左：寄付されたシェルター資材の上に座る、家を追われたイエメンの子供。写真／ ShelterBox の厚意により掲載 右：カリフォルニア州で洪水後のがれきを撤去しながらハイタッチをする、ボランティアたち。

物理的な援助

トルキエ南部とスリヤ北部では、甚大な被害を与える地震が連続して起こり、何百万人もの被災者を出しました。教会は速やかに対応し、被災地の複数の救援団体と協力して働きました。教会は、何百もの仮設のプレハブ住宅の建設を支援しただけでなく、手術室のある移動式野戦病院5棟の設置を支援して、倒壊した医療施設に代わる施設を提供しました。

5月、マラウイでは何千人もの人々が（記録上最も長期にわたる）36日間の熱帯サイクロンの被害に遭い、避難しました。教会は、移動診療所へのテントや毛布の支援に加えて、家を失った何百人もの地元住民に避難所を提供しました。教会員はこのような人たちに食べ物を与え、必要であれば家族に会えるよう移動の手配し、住む場所が見つからない人には、見つかるまで世話をしました。



洪水で家と家財を流されて仮設住宅に住む、パキスタンの母親と子供。写真／ Shelterbox の厚意により掲載

イスラエルとガザにおける人道支援活動

紛争地域を含め、世界中で人道支援を提供するという目的に沿って、末日聖徒イエス・キリスト教会はガザやイスラエルの複数の国際救援機関と協力して、何よりも必要とされる、医療措置とメンタルヘルスケアを行うために、相当な額の財政援助を行いました。

「わたしの隣り人とはだれのことですか。皆が隣り人です。どのような状況に置かれていようと、どこから来ていようと、人種や宗教に関わらず、すべての人に手を差し伸べています。わたしたちは、祝福できるすべての人を祝福するためにここにいます。」

—W・クリストファー・ワデルビショップ
管理ビショップリック第一顧問¹⁰

きれいな水と公衆衛生

人道支援の重要な優先事項として、末日聖徒イエス・キリスト教会は飲料水と公衆衛生、衛生（「WASH」としても知られている）を必要とするすべての人を支援することを目指しています。この目標を達成するために、教会は世界中の他の組織や地域の地域社会と協力して、これらのサービスを多くの人を受けられるよう改善を行い、全体的なシステムを強化し、長期にわたって有効な解決策を見つけて、人々が自立できるよう助けています。

すべての人にきれいな水が行き渡るようにする持続可能な管理方法

シエラレオネでは、教会とウォーターエイド (WaterAid) が協力して、何千人もの地域住民がきれいな水を使えるようになるために働きました。このプロジェクトの結果、住民は衛生サービスと衛生習慣に関する知識が豊かになりました。「この訓練のおかげで、わたしは学校の女子に生理時の衛生的な手当てをうまく指導することができるようになりましたし、定期的にトイレや更衣室の点検を行い、常に水が利用できることを確認することができるようになりました」と、このプロジェクトの恩恵にあずかった学校で保健クラブの進行役を務めるハワは言っています。

「WASH」に関する地域社会の取り組み

2023年、教会はウォーター・フォー・ピープル (Water for People) と協力して、グアテマラの地域社会の人たちが屋外排泄をしなくても済むようにしました。このプロジェクトを通して地域の住民たちは、耐久性のある資材を手に入れて、地域の過酷な天候に耐えられるような家族のトイレを作ることができました。同様に、パプアニューギニアとリベリアでも、教会とウォーターエイド (WaterAid) が協力して、地域社会や学校に安全な蛇口を取り付けました。このプロジェクトでは、蛇口の使い方や維持管理について地元住民への教育も行いました。

わたしにできること

- 自分の住む地域にとってのきれいな水と衛生管理の必要性を知る。
- 自分の住む地域のきれいな水の利用方法と、きれいな水運動への参加方法について学ぶ。

きれいな水プロジェクト 112件

公衆衛生と衛生プロジェクト 94件

プロジェクトが実施された国 73か国

奉仕を通して地域社会に祝福をもたらす

ボリビア出身の農業従事者ホルヘは、井戸を掘って地域にきれいな水を引きたいとずっと思っていました。ウォーター・フォー・ピープル (Water for People) と末日聖徒イエス・キリスト教会の援助を受けて、その夢はついに実現しました。

「信じられません。蛇口をひねるだけで水が出るんですよ」とホルヘは言います。この新しい井戸ができたおかげで子供たちは清潔な身なりになり、気兼ねなく学校に行かれるようになったと、ホルヘは報告しています。同地域の農業従事者たちも、穀物の栽培に必要な水をたくさん引くことができるようになりました。「これで安心して死ぬことができますよ」とホルヘは言っています。「ここにいる家族には水があるのですから。」⁹



左:手を洗う女性と少女。写真/Water for Peopleの厚意により掲載。右:水道から出るきれいな水を孫娘に飲ませる東ティモールの女性。写真/ウォーターエイド/タルク・ハワリの厚意により掲載。

教育

教会は、世界中の人々が学び、進歩し、最大限に可能性を引き出す機会を作ることによって、彼らが自立できるようにしています。教育は貧困を減らし、健康を増進し、社会を良くするうえで重要な役割を果たします。教育で得た収穫は、経済的成長と平和的な対立の解決にもつながります。教育は希望の基であり、行動を促します。

教会員向けのリソース

教育を受けるという教会員の目標の達成を支援するために作られた二つの重要な教会のリソースは、永代教育基金 (PEF) と BYU - パスウェイ・ワールドワイドです。永代教育基金は、学生が就職や自営業の開業に必要なスキルを提供する教育プログラムを修了できるよう助ける財政支援プログラムです。BYU - パスウェイ・ワールドワイドは、手ごろな価格で受けられる高等教育をオンラインで学生に提供しています。

教会員が利用できるその他の教育リソースには、以下に挙げるものなどがあります。

- **ベンソン奨学金プログラム**：会員が栄養学と農業関連の分野で大学教育を受けられるよう支援するプログラム。
- **EnglishConnect (イングリッシュコネクト)**：教会員やその他の人々に無料で英語を教えます。

一般に提供されるリソース

教会の人道支援活動は教科書や机、椅子、教師の訓練、教室の改装などを提供し、生徒が質の高い教育を受けられるように支援しています。2023年には、教育関連の何百ものプロジェクトの中で、教会は資材の乏しいトンガの田舎の学校に家具や書籍、そのほかの備品を寄付しました。

ベンソン奨学金の授与 349 件

教育プロジェクト 530 件

プロジェクトが実施された国 97 개국

より良い未来を築くための教育への資金提供

アルゼンチン人アルフレッドとナディアは、勉強を続けてより良い未来を築くか、教育に高いお金をかけずに今の生活水準を維持するか、という難しい決断を迫られました。夫婦の抱いていた将来の夢が崩れようとしていたときに、アルフレッドが永代教育基金について耳にしたのです。

「ローンを借りることができました。プログラミングの勉強を修了し、見事学位を取得しました」とアルフレッドは言います。「妻も好きなことを学び続けることができました。」アルフレッドは最終的にすばらしい仕事に就き、ナディアは人事の学位を取得し、新たな機会の扉を開きました。

わたしにできること

- 永代教育基金についてほかの人に教える。
- 地元の学校でボランティアをする。
- 子供に本を贈る。



左：EnglishConnect のクラスに集まって英語のレッスンを受ける人々。右：ペレトリコの学校に行く途中の少年。



寄付された品物を仕分けするデゼルト産業のスタッフを手伝うジョブコーチ。

就職に成功した人の数 5,538 人

バーチャルワークショップ
開催数 2,603 件

作成された個別職業訓
練計画 3,824 件

わたしにできること

- 仕事を探している友人や家族の相手になって、面接の練習ができるようにする。
- 地元の非営利団体で、求職者の良き相談相手になる。
- 自分の知っている求人情報を知人に教える。

雇用

困っている人の支援を末日聖徒イエス・キリスト教会が行う方法の一つは、ツールやサービスを提供して、人々が準備して就職し、就職した分野で能力を伸ばして安定した収入を得られるようにすることです。

職業支援サービス

職業支援サービスは、失業者、再雇用を望む人、現在の雇用状況の改善を図る人を助けます。雇用カウンセラーは、対面サービスと、センターの近くに住んでいない人のためのオンライン支援の両方を提供しています。

職業支援サービスは、教会員やその他の人々を助けるために、様々な支援を提供しています。カウンセラーは1対1の指導と「Active Job Search」(アクティブ・ジョブ・サーチ)グループを提供しており、履歴書の書き方や面接のスキルからネットワーキングまで、あらゆる支援を行います。ビジネスを始めようとしている人のために、職業支援サービスは訓練、メンタリング、資金に関する情報など、自営業のためのリソースも提供しています。

職業支援サービスは、求職スキルを教えるためにオンラインで「専門家に尋ねる」フォーラム、ワークショップ、ウェビナーも提供しています。これらのリソースは、[Employment.ChurchofJesusChrist.org](https://www.employment.churchofjesuschrist.org)にあります。

開発カウンセリングサービス

開発カウンセラーは、様々な職業の人々が雇用の障壁を見つけてそれを克服できるようにします。各デゼルト産業店舗内で、運営スーパーバイザーは開発カウンセラーと密接に協力して、スタッフに対して改善されたサポートを提供します。開発カウンセラーは、デゼルト産業店舗が現在サービスを提供していないその他の選択した地域でも利用できます。

開発カウンセラーは、雇用と自立に向けて進歩するための強み、障壁、戦略を知るために、詳細な評価を行います。また、御し難い感情やストレスに対処し、生活に良い変化を起こせるよう助けることもできます。

人道支援センター

デゼルト産業店舗が受け取った衣類の余剰分は人道支援センターに送られ、そこで仕分けされて世界各地の困っている人々のもとに送られます。

人道支援センターのスタッフの出身国や背景は様々です。多くの人が、祖国を捨てて、紛争や飢えその他の苦難から逃れてきました。彼らは働きながら英語のクラス（仕事時間に組み込まれています）に出席し、収入を得る機会を与えられています。

デゼルト産業

2023年、デゼルト産業(DI)は創立85周年を祝いました。デゼルト産業は設立以来、仕事を見つけるのに苦労している人が仕事を見つけ、より良い未来を築くのを助けてきました。デゼルト産業は現在、アメリカ合衆国の8州で46か所運営しており、一時期に最大4,000人のスタッフにサービスを提供しています。

デゼルト産業のスタッフは店舗で働き、地元の提携先で訓練を受け、貴重な小売業務の経験を積み、仕事のやり方を覚え、そのほか必要不可欠な生活スキルを身につけ、自分の選んだ業界で成功を取られるようになります。この作業訓練プログラムは、Deseret Manufacturingの職員も利用でき、スタッフは基本的な木製家具と睡眠補助製品を生産します。スタッフは、運営スーパーバイザーと定期的に会合を持ち、指示と励ましを受けます。

暫定支援サービス〔注：一時的に生活支援をする教会本部でのサービス〕

教会はまた、ユタ州、ネバダ州、アリゾナ州に9つの暫定支援サービス事務所を構えています。この事務所では、暫定支援サービスのスタッフとボランティアが、地域社会に溶け込むためには助けが必要な、あらゆる種類の人、つまり、

出所者やホームレス、密売から立ち直った人などを支援しています。この事務所は、退役軍人やほかの国から移住して来た人にもサービスを提供します。

暫定支援サービスのスタッフは、食べ物や衣服、バス代その他の必要なものを提供することによって、このような人たちに一時的な支援を提供します。暫定支援サービスは、雇用サポートおよびファミリーサービスと密接に連携して、このような人々が長い目で見て自立できるようになるための計画を、調整しながら立てていきます。

人生の新たなスタート

教会で2年間の伝道を終えたアンドレは、その後、運動生理学の学士号を取得するために熱心に勉強しました。ところが、以前に遭った事故の後遺症のせいで、処方薬の依存症にかかってしまいました。ホームレスから足を洗ったアンドレは、暫定支援サービス事務所に助けを求めました。

スタッフはアンドレと一緒に現在の状況を評価して、計画を立てました。地域の提携団体や地元の教会員と協力して、補助金付き住居を探しました。スタッフはまた、アンドレが教会の依存症立ち直りプログラムに参加できるようにし、仕事が見つかるよう助けてくれたので、アンドレは人生の新たなスタートを切ることができました。

「今こそ、ほかの人々を祝福し、『なえた手……を、まっすぐに』できる時なのです。」

—末日聖徒イエス・キリスト教会大管長、
ラッセル・M・ネルソン大管長¹¹



左：雇用センターに集まってアクティブ・ジョブ・サーチ・グループの会合に参加する求職者たち。中央：レストランで働くメキシコの男性。右：職業支援サービスで奉仕するよううされた若い奉仕宣教師とシニア宣教師。

グレートソルトトレイクに寄付
された水 65 億ガロン

モンゴルに寄贈された木 14 万本

ユタ州職員が公共交通機関を利用す
ることにより、1,153,000 マイ
ル (約 185 万キロ) が削減される

わたしにできること

- 教会指導者やそのほかの人々が地球の保全について教えてきたことを学ぶ。
- エネルギーを節約し、水の使用を減らし、ごみを減らす方法を見つける。
- 災害救援活動でボランティアとして働き、環境上の問題による負荷を最小限にとどめる。

「わたしたちは、良い管理人となり、賢い管理人の職の習慣と価値観を通して、より良い地球を将来の世代に伝える義務を負っています。」

—L・タッド・バッジビショップ
管理ビショップリック第二顧問¹²

環境に対する管理責任

末日聖徒イエス・キリスト教会は、地球とその資源を大切にすることは、助けを必要とする人への支援と密接に結びついていると考えています。2023 年、教会は水の節約やエネルギーの節約、リサイクルなどの取り組みを通して、環境の保全を図ってきました。教会はまた、可能であれば地元にあるリソースや資材を用いて、人道支援プロジェクトにおいて持続可能な解決策を優先しています。

節水

2023 年、教会は、教会のすべての農業施設の水管理計画を策定することに重点を置き、多くの教会施設にスマートコントローラー、セミナトメーター、雨用散水システム、点滴灌水システムを導入しました。この取り組みには、幾つかの集会所の景観を良くし、持続可能な景観の原則と干ばつになりやすい地域での節水方法をテストすることも含まれています。

2023 年 3 月、教会は干ばつが広がっているユタ州のグレートソルトトレイクに、年間 65 億ガロンの灌漑用水を寄贈しました。この寄贈は、これまで同州が受けた恒久的な水の寄贈としては最大級のもので、一戸建て住宅 2 万軒分の永久給水量に相当します。この水は引き続き湖に流れ込み、その周りの環境を維持するのに役立つこととなります。

省エネルギー

この地球の資源の管理人として、教会は基金と天然資源を慎重に管理することに注力しています。2023 年に行ったそのほかのエネルギー節約活動の中でも、特に教会は、世界中の多くの集会所に太陽光パネルを設置しました。

リサイクル

2023 年、教会は聖餐で使用するカップを、100%リサイクル資材で作られたプラスチックカップに移行し始めました。デゼルト産業は重要な役割を果たしており、本来なら廃棄されることになる寄付品を受け取って再利用し、時にはリサイクルしています。



左：一緒に自転車に乗る日本の母親と子供たち。中央：オグデン神殿の周りに花を咲かせる若い教会奉仕宣教師。右：グレートソルトトレイクの乾いた地面に置かれたドック。

医療とモビリティ（歩行補助器具支援）

キリストは現世で務めを行われた間、障害のある人や病気の人にミニスタリングをすることに、特に心を砕かれました。イエス・キリストの教会は、世界中の医療とモビリティ（歩行補助器具支援）を通して、今もこの使命を果たしています。

予防接種

教会は世界的なワクチン接種の取り組みに積極的に参加しています。一つの例は、教会が主催する、ザンビアでのワクチン接種運動を強化する取り組みで、UNICEF USA と協力して進めています。地元の厚生省と UNICEF USA とともに取り組んだこの運動のおかげで、はしかやポリオの予防接種が受けやすくなり、同地域での大発生の回数が減りました。教会の資金提供により、ユニセフがパキスタンとアフガニスタンでのワクチン接種者を訓練することが可能になっただけでなく、ペルー厚生省による子供たちへのポリオおよびはしかの予防接種キャンペーンも可能になりました。

施設の建設、拡張、および改修

医療施設をグレードアップすることによって医師と看護師はより良い治療を提供することができるようになり、公衆衛生の状態が全般的に良くなります。2023年に教会が行ったその他の取り組みには、パラオ共和国の病院への生物医学器具の寄贈や、ロシアのブリヤンスク地方の病院の改修支援金と医療用品の寄贈があります。教会はまた、ジンバブエに新しい農村保健クリニックの設立資金を提供し、ベッドと医療器具を寄付しました。このプロジェクトの一環として、教会は診療所のスタッフ用の住居を改装し、施設に太陽光発電設備を提供し、水源となる井戸を掘りました。

視力ケア

視力ケアは、2023年にも、引き続き人道支援の優先事項でした。教会は、白内障を治療し、視力ケアを受けやすくするための全世界のプロジェクトに資金援助を行いました。例えばモザンビークでは、教会は遠く離れた田舎町からやって来ている多くの人に眼科検査を行い、医療処置を施しました。2023年のその他のプロジェクトに加えて、教会はマレーシアでは白内障手術に使用する500個の眼内レンズ、ペルーでは何千個もの眼鏡、メキシコのチアパス州では視力検査を改善するために自動屈折角度計を寄贈しました。

わたしにできること

- 地元の病院に、未使用の松葉づえその他の歩行補助器具を寄付する。
- ワクチンの重要性について学び、知っていることを友人や隣人に教える。
- 地元の視力検査その他の健康関係の行事をボランティアで手伝う。

車椅子の寄贈台数 25,786 台

視力ケアプロジェクト 29 件

妊婦と新生児のケアプロジェクト 73

ホンジュラスへの車椅子の提供

末日聖徒イエス・キリスト教会からの寄付のおかげで、サンペドロスーラの体の不自由な数百人の大人と子供たちが、車椅子と姿勢補助器具を受け取りました。そのおかげで彼らは今、さらなる独立と尊厳を享受しています。

この寄贈は、2023年に教会が行った寄贈の一つに過ぎません。教会が行った寄贈は、世界中の何千人もの人々に影響を与えました。



ザンビアの赤ん坊にポリオの予防接種を行う医療従事者。写真/©UNICEF/UN0663888/Schermbrucker の厚意により掲載。



左: 栄養価の高い学校の食事を楽しむハイチの子供。© WPF/Theresa Piorr. 右: 教会所有の農場でベリーをつむシニア宣教師。

食糧安全保障プロジェクト 530件

栄養プロジェクト 71件

プロジェクトが実施された国 94か国

「イエスは子供たちに優しい心を持っておられます。彼らが飢えに苦しんでいるのを見て、涙を流されます。そして、彼らを助けるほんの小さな努力さえも、喜んでくださいます。」

一カミール・N・ジョンソン会長
中央扶助協会会長¹³

飢えに苦しむ人々への食事

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、自立の原則を実践しており、ほかの人々が同じく自立するのを助けようと努めています。とはいえ、飢えや、当面必要なものがない人にとっては、多くの場合、短期的に必要なものが手に入らない状況で長期的な自立に力を入れることは困難です。教会は、当面の飢えをしのげるような対応を行い、栄養の摂取状況の改善を支援し、長期にわたって食料を確保できるようにすることによって、このような人々を助けようとしています。

当面必要なことを行う

当面必要なものを提供するために、教会は123のビショップの倉を運営しており、地元の教会指導者は、集会所の会員が食料その他の物品を無料で受け取れるように手配することができます。これらの倉は、地元の何百ものフードバンクにも製品を寄付しています。

ビショップの倉から分配される生活用品の総数の4分の3は、教会の農場や果樹園、畜産経営、処理工場で生産または処理された製品です。これらの事業は、ボランティア（教会員、地域の会員、または国の団体のボランティア）によって行われています。

ビショップの倉から物資を手に入れることのできない場所では、指導者が地元の食料品店と調整して必要な物を調達する場合があります。教会はまた、飢餓全般に対処する世界中の他の組織にも支援を提供しています。さらに教会員は、地域社会で必要なことを行うために、フードドライブによく参加します。

栄養

末日聖徒イエス・キリスト教会は栄養不良の改善を行うという決意を固めており、地域社で草の根の活動を組織するという独自の立場にあります。

2023年には、教会の扶助協会の主導の下で、栄養不良に陥っている子供のいる教会員を支援する活動など、子供の栄養状態改善運動への支援を継続して行いました。この活動で、地域の教会指導者と会員は、栄養不良の一般的な兆候や栄養検査の実施方法に関する訓練を受けます。この活動では、教会員が地域の健康・臨床サービス、栄養補助食品の摂取、予防接種、その他の援助を受けられるように指導して、栄養不良に陥るリスクを軽減する努力もしています。

教会は人道支援活動の一環として、農村部の農業従事者に栄養豊富な作物の生産ができるよう全般的な支援を行い、地域の保健システムと連携して、教育と、治療食の摂取にも力を入れました。ケア〔訳注—CARE。人道支援活動を行う非営利団体〕およびヘレン・ケラー・インターナショナル、カトリック救援サービス、セーブ・ザ・チルドレン、iDE〔訳注：農村部の貧困層に対して持続可能な農業技術と水利施設を提供する非営利団体〕、ハンガー・プロジェクト、ユニセフ、世界食糧計画といった資格ある組織と協力して、教会はあらゆる状況にあるハイリスクの家族が大切な時期に必要な栄養素を含む食品を摂取できるようにし、初産の女性とその子供が発育に必要な栄養を確実に取れるよう支援することができました。

食料の確保

全世界での食料の確保は、2023年も引き続き人道支援の優先事項でした。セネガルで教会は、MyAgro〔訳注：農民と協力して貧困解消の努力をすることができるようにし、何千人もの農業従事者を訓練して、農業を長期的に持続できるようにしました。教会はまた、iDE ザンビアと協力して、何千人もの農業従事者が農業投入財を利用して市場へ農産物を搬入できるようにし、収入を増やし、同地域で食料を確保できるよう改善しました。〕

さらに、教会は、都市部や家族の菜園を活用して食料の確保を図るための幾つかのプロジェクトを支援しました。例えばフィリピンで教会は、農務省および植物産業局と協力して、サンファン市で都市農業プロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトは、地域社会の会員が自分自身の生産物を育て、外部の食料源への依存を減らすことにより、持続可能な都市農業を実施するのに役立っています。

食料の提供が自立を促進する

2023年、末日聖徒イエス・キリスト教会は、ハンガー・プロジェクトと協力してブルキナファソにセンターを設立し、地元住民がそこに来れば製粉機などの設備を使うようにしました。

このプロジェクトは、4人の母親であるヒンミンに大きな影響を与えました。以前は遠くまで歩いて、村に一つしかない製粉所に行き、長い列に並んで待たなければならなかったのです。今では製粉に時間も費用もあまりかけずに小麦粉が早く手に入るようになり、働いて収入を得る時間と子育てにかけられることのできる時間が増えました。

わたしにできること

- 地元のフードパントリー〔訳注：何かしらの理由で食品を手に入れることが困難な人へ直接無料で食品を配布する会〕でボランティアをしたり、フードパントリーに寄付したりする。
- 地元地域の食糧不足解消のために、地域農園プログラムを始める。
- 地元の食糧不足について友人や家族と話し、それを解消するために何ができるか話し合う。



台湾の菜園で働く夫婦。

ホームレス支援プロジェクト 374 件

暫定支援サービスを利用した人 1万 1,063 人

新しい国での再出発

ナディアとその家族は、2023年にアメリカに移住しました。健康上の問題のために、彼女と夫は高い教育を受けているにもかかわらず、新しい土地ではなかなか仕事が見つかりませんでした。

末日聖徒イエス・キリスト教会とラオ・ファミリー・コミュニティ開発から援助を受けて、ナディアとその夫は家賃の補助が受けられるようになり、ホームレスになるのを回避することができました。タイミングよくこの援助が受けられたおかげで、ナディアと夫は仕事を見つけることに注力できるようになり、自立につながったのです。

わたしにできること

- 地元の避難センターや赤十字または赤新月社の事務所でボランティアをする。
- 地元地域で避難所を探している家族を後援する。
- 地元にいるホームレスにどんな助けができるか隣人と話す。

住宅支援

人がホームレスになる理由はたくさんあります。自然災害や紛争その他の特異な状況のために一時的に住まいを失う人もいるでしょうし、失業、メンタルヘルスにかかわる試練、または依存症のために家を手放す人や、単に悪い状況に遭って家を失う人もいます。理由は何であれ、末日聖徒イエス・キリスト教会は、プライバシーと安全と尊厳を提供する方法で住居の問題に対処するという、重要な人道支援を行っています。

ホームレスへの支援

教会は、アメリカ合衆国で9つの暫定支援サービス事務所を運営しています。これらの事務所のスタッフは、ホームレスが愛と支えを感じながら状況を改善していくことができるよう助ける訓練を受けています。暫定支援サービスは、差し当たり必要な物資を与え、メンタルヘルス、依存症、職探しなどを支援するために、地元にある関連組織を紹介します。アメリカ合衆国や世界中のその他の場所で、教会はホームレスに奉仕する組織を支援するために、人道支援基金と寄付を提供しています。

緊急シェルター

2023年にはほかにも、教会はシェルターボックスと協力して、イエメンの紛争で家を追われた1,000以上の家族にテントを提供しました。教会はまた、ハワイ島の山火事で家を追われた住民に一時的な避難所として集会所を開設し、ホテルの無料券を提供しました。

社会的弱者の支援

教会は、幾つかの団体と協力して、ホームレスになる危険性の高い社会的弱者（難民や亡命を求める人など）を支援しました。例えば教会は、メキシコ大司教協議会移動者支援部門（Pastoral Dimension of Human Mobility of the Conference of the Mexican Episcopate）と協力して、11の避難所と4つのコミュニティーキッチンに備品を寄付し、何千人もの人が避難所や衣服、法的支援などを利用できるようにしました。



左：シェルターキットとその他の必要物資を贈られたシリア難民の家族。写真 / ShelterBoxUSAの厚意により掲載。右：カリフォルニアのホームレス・シェルターでベッドの準備を手伝う地元ボランティア。

メンタルヘルス

精神的、情緒的な苦しみは、人とつながりを持つ能力や周りの世界に十分に貢献する能力の低下を感じる原因になります。このような問題の解決に努めることによって、人はしばしばより大きな喜びと充足感を感じ、立ち直る力がさらに強くなります。

精神的または情緒的な困難に直面している教会員は、ビショップから照会を受けて、ファミリーサービスから無料で助けと援助を受けることができます。ファミリーサービスはまた、助けを必要としている会員へのミニスタリングの取り組みの支援など、教会指導者の相談にも乗ってくれます。個人、夫婦、家族、親になろうとしている独身者、教会の宣教師は、カウンセリングを受けることができます。

ファミリーサービスを通して提供されるリソースの一つには、「救い主を通して癒される—依存症立ち直りプログラム」があります。このプログラムは、教会員や、強迫行動に苦しむ人を支援しますし、家族のためのサポートグループも提供しています。教会はまた、自立グループに「主に力を見いだす：レジリエンスを高める」を提供して、参加者が人生の困難に立ち向かうスキルを学べるよう助けています。

さらに、ファミリーサービスは危機的な状況にある人に情緒的なケアを提供します。例えば、2023年には、壊滅的な山火事の影響を受けた教会員に情緒的な支援を提供するために、専門のカウンセラーのチームがハワイ州マウイに配属されました。

わたしにできること

- 隣人にキリストのような愛と思いやりを示す。彼らにどんな苦労があるのか、人には決して分からないのですから。
- 地元にある依存症立ち直りプログラムとレジリエンスグループを支援する。
- 「質問、説得、紹介」の訓練を受けて、自殺を考えている人がいたら助ける方法を知る。

カウンセリングの時間
合計 21 万 8,170 時間

ファミリーサービスの支援が
受けられる国 97 か国

依存症立ち直り集会の開
催数 2,926 / 週

希望を再び見いだす

ルーシー*は、ファミリーサービスがヨーロッパに性的虐待を受けた人のための支援グループを設立したことを知って、新たな希望と帰属意識が湧いてくるのを感じました。このグループは教会が提供し、訓練を受けたカウンセラーが進行役を務めます。

参加した結果、ルーシーは自分の経験が自分の心理的、情緒的、霊的にどのような影響を与えたかが理解できるようになってきました。「昔なくなった希望が、また戻ってきたのです」とルーシーは言っています。

*名前は変えています

「わたしたちが周りの人々に、情緒的、霊的、身体的な安らぎをもたらすのを助けることができるのは何という祝福でしょうか。」

—J・アネット・デニス姉妹
中央扶助協会会長会第一顧問¹⁴



左：友達と一緒に景色を見てほほえむ若い女性。中央：依存症立ち直りグループ集会。右：情緒的レジリエンスコースに参加して進行役を務める教会員。

自立

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、自立することは大切だと考えています。自分のことができてこそ、神を愛し、隣人を愛するという、救い主の二つの大切な戒めに心を向けることができるのです。

自立グループ

教会は、会員が自立できるようにするために作った幾つかのグループを提供しています。参加者はビジネスを始める方法や財政管理をする方法、仕事を見つける方法などを学ぶことができます。このグループからは、大きな影響を受けることがあります。

例えば、オスバルドは子供のころ、大きな事故で両手を失いました。彼は自立したいと思ったので、パラグアイの故郷にある教会の自立グループの幾つかに出席しました。これらのグループでは、個人の財政と求職活動のスキルと、心のレジリエンスを身につける方法を学びました。その結果、テレマーケティングの仕事に就き、印刷と写真撮影のビジネスを始めることができました。

人道支援活動

教会は数多くの人道支援活動を通して当面必要なものを提供する努力をしていますが、常に目標としているのは、人を長期にわたって自立できるようにすることです。

例えば、サウスダコタ州で教会は、自活する手段をさらに提供するために、スコトン・ワップトン・オヤテ族の会員に食品加工用具を寄付しました。教会はまた、非営利団体であるアップワードリー・グローバルと協力して、教育を受けているアメリカ合衆国全土の移民が医師、歯科医、教師、その他の仕事を継続して行える資格を得られるようにしました。



南アフリカで一緒に集う自立グループ。

実施された自立グループ 14,643

グループを完了した参加者 11万人

参加者のいる国 90か国

新しい技術を身につけ自立する

依存症との闘いで10代をくぐり抜けた後、エイミーは断酒会に通い始め、断酒し続けるために努力しました。しかし、このような背景があるために、子供を養えるような仕事に就くのは困難でした。

非営利経営の犬のトリミング学校、ポースペリティーを見つけたのは、そんなときのことです。困っている人が自立できるよう助けるために作られた学校でした。末日聖徒イエス・キリスト教会からの寄付のおかげで、ポースペリティーは生徒数を3倍にすることができ、生徒たちを助けています。エイミーはこのプログラムに登録することができ、ペットのトリミングのスキルだけでなく、マインドフルネスや自己認識、コミュニケーションといった生活スキルも学ぶことができました。

わたしにできること

- 自分の地域の自立グループに登録する。
- 地元のクラスを教えることによって、自分のスキルを分かち合う。
- ほかの人の自立を助けるプロジェクトをボランティアで行う。



マウイ島の山火事の後で抱き合う二人の地域住民。

全世界での援助

「約 10 年間、世界食糧計画と末日聖徒イエス・キリスト教会は提携して、世界中で最も弱い立場にある人々に食料やその他の重要な支援を提供してきました。世界で前例のない必要性が高まったこの時期に、わたしたちは、何百万人もの飢えた人々に命綱を与え、より良い将来に希望を抱く教会の支援に感謝しています。」

—世界食糧計画 (USA) の会長兼 CEO, アロン・セガー



白内障の手術の後、視力という賜物を得たガーナの女性。写真 / Daybreak Vision Project の厚意で掲載。

人道支援プロジェクト 572 件

きれいな水と衛生プロジェクト 57 件

食糧安全保障プロジェクト 131 件

わたしにできること

- 地域菜園プロジェクトに参加する。
- 現在何が必要かについて、地元の学校と話す。
- 新生児のケアについて知っていることをだれかに教える（またはもっと自分で学ぶ）。

「教会の提携は 人生を変え、だれも取り残されないようにしてくれます。」

—エブリン・メレ
ナイジェリア・ウォーターエイド、プログラムディレクター

アフリカ

2023 年、教会は貧困を減らし、食料を確保し、アフリカ全土できれいな水、衛生施設、教育、医療サービスを利用できるようにする取り組みを行いました。この活動は、奉仕する地域社会により良い基盤を築き、基本的な必要に対処し、人間の尊厳を保つという教会の決意を反映しています。

食料と飲料水の確保

ケニアで教会は、食料の確保と栄養の改善、持続可能な生活の促進、金融危機に備えて行う受益者の訓練、教育の支援を目的とする非営利団体である BOMA と共同で取り組みました。1,000 人以上の参加者が、地元で育った野菜を地元で消費できる「キッチン菜園」を作る訓練を受けました。その結果、204 の菜園が開かれ、現在、栄養価の高い食べ物を提供しています。

エスワティニのホホでは、教会とウォーターエイド (WaterAid) が協力して、1,200 人以上の地域住民にきれいな水を届けました。このプロジェクトには、水質調査が含まれ、建設、労働、機械が提供され、その結果、太陽光駆動の水システムが 2 台導入されました。



ケニアのイフォ難民キャンプでシェルターと栄養支援を受ける母子。



左：扶協協会会長のカミール・N・ジョンソン会長と若い女性会長のポニー・H・コードン会長がアフリカを訪問した際に、屋台を見せる女性。右：娘の手にきれいな水を注ぐマダガスカル之母親。

教育

ケニアのナルマラという辺境の村で、教会はBOMAと協力して地元の女性たちに起業を促進し、家族の支えとなる収入源を確保して、地域社会での彼女たちの地位を高める方法を与えました。指導と訓練を通して、女性たちは市場における物品のコストを理解する方法を学びました。例えば、交通費を大幅に削減して利益を増やすために、物資を大量に購入することを学んだのです。

医療と障害

ナイジェリアのアブジャで教会は、透析装置や椅子、新生児用の保育器と折り畳み式ベッド、病院用のベッド、患者用モニターなどの医療器具を、連邦医療センターに寄付しました。さらに教会は、逆浸透施設の建設を助け、きれいな水を使って透析を行う病棟を提供しました。

教会はまた、新生児と妊産婦の世話を優先し、ナイジェリアのエヌグにある地方自治体と協力して、新生児蘇生法その他の技術訓練を行いました。さらに、教会はユニセフと協力してタンザニア、ケニア、エチオピアで指導プログラムを共同で作成し、母親と新生児のケアの質を向上させるための学習ハブを確立しました。

ジンバブエのハラレ郊外では、ボランティアがトイレとシャワー付きの新しい診療所の建設を完了しました。教会職員は地元の保健省と調整して、診療所の職員の住居を改善し、太陽光駆動の穴を通してきれいな水を提供しました。ルウイジの3,500人以上の地域の会員がこの取り組みから恩恵を受けました。

一人ではなく、多くの人に祝福を

ザンビアの農業従事者ラファエルは、たまねぎ畑での収穫が少ないだけでなく、病害虫の多発に悩んでいます。末日聖徒イエス・キリスト教会から支援を受けたザンビアのiDE（国際開発企業）を通して、ラファエルは玉ねぎおよびその他収益の高い穀物の生産を増やすことができる持続可能な開発技術の訓練を受けることができました。iDEはまた、たまねぎの種を提供し、ラファエルの畑に点滴かんがいキットを取り付けました。

この支援を受けたおかげで作物の生産量が増え、ラファエルは害虫に強い作物を作れるようになりました。彼は非常に成功したため、iDEザンビアから選ばれて、たまねぎや野菜、落花生その他の作物を生産する他の農家を訓練することになりました。それによってラファエルは、ほかの人たちにも、食料と収入の増加という祝福を与えることになったのです。



左：インドの眼科医療センターで視力治療を受ける家族。右：庭仕事をするタイの二人の男性。

人道支援プロジェクト 305 件

教育プロジェクト 81 件

病院改善プロジェクト 78 件

わたしにできること

- 地元の病院に入院している人を見舞う。
- 地元の子供たちの勉強を見たり読み聞かせをしたりすることをボランティアで行う。
- 手洗いなど、病気予防に役立つ習慣を人々に教える。

アジア

その他の取り組みとして、教会は 2023 年にアジア全域の医療、教育、きれいな水と衛生の問題に取り組みました。この活動から、ほんの小さな貢献であっても、困っている人の世界を変えることができるのが分かります。

医療

アジアの多くの地域では、訓練が受けにくい、最新の機器がない、まともな施設がないという理由で、病院の発展が妨げられています。2023 年、教会はアジア全域、特にカンボジアに焦点を当てて医療の改善に取り組みました。例えば教会は、コンポントム州立病院で教会は、幾つかの建物の改修を手伝い、新しい備品を提供し、腹腔鏡手術と新生児蘇生法に関して医療スタッフが訓練を受けられるようにしました。その結果、その地域の何千人もの人々が必要な医療を受けることができるようになりました。回復にかかる時間が短くなり、死亡率も低くなるという祝福を受けています。

その他の取り組みとして、教会は以下のことも行いました。

- インドネシアの農村地域における医療専門家への新生児蘇生法と安定措置の訓練。
- マレーシアへの超音波検査機、分娩台その他の医療器具の提供。
- タイへの救急車用スパインボード、ならびに集中治療室で使用される輸液ポンプとシリンジポンプの提供。



香港の公園にいる母親と娘。

教育

2023年、教会はアジア全域で生徒の教育環境改善に取り組みました。例えばカンボジアでは、学校の屋根や床、トイレ、送水ポンプその他の衛生設備を刷新し、生徒が気持ちよく学びに集中することができるようになりました。はモンゴルでも同様に、教会はトブ県の政府や学校の役人と協力して、両親に学用品を買う余裕のない年少の生徒たちに1,000個のバックパックを支給しました。

きれいな水と公衆衛生

きれいな水は、すべての人の安全と自立を高めることができます。ターメニスタンで教会は、カリタスと協力して、二つの水供給システムを復旧して拡張し、衛生、安全なごみ処理に関する訓練を行い、何千人もの住民に恩恵をもたらしました。

モンゴルのバガヌールでは、地元の水道部と協力して、地域内のすべての圧搾ステーションに紫外線による水殺菌装置を設置しました。これによって、バガヌールの何万人もの人々が、その地域のすべてのポンプ場できれいな水を使うことができるようになりました。

災害後のより良い生活

マグニチュード5.6の地震がインドネシアの西ジャバを襲い、イブと夫は家を失いました。末日聖徒イエス・キリスト教会やその他の非政府組織の助けを得て、イブと夫は救援物資を受け取り、そのおかげで自宅跡に仮設住宅を建てて、生活を立て直し始めることができました。

その支援のおかげで、イブは小さな店を開いて家族の生活費を稼ぐことができるようになり、家族がこの災害から立ち直るのに役立ちました。

「末日聖徒イエス・キリスト教会は、世界中で最も弱い立場にある地域社会に、最も助けを必要とするときに不可欠な支援を提供することができます。」

—ケリー・マレー（アメリカ合衆国シェルターボックス会長）

教育プロジェクト 99 件

医療プロジェクト 54 件

緊急支援プロジェクト 28 件

明るい未来への展望

ソロモン諸島の大学で学術アドバイザーを務めていたジェームズは、糖尿病による白内障のために視力を失いました。そのために、仕事も二人の幼い子供たちの世話もままならなくなりました。ジェームズは、ソロモン諸島の地域眼科センターで手術を受けて視力を回復するまで、9か月間失明していたのです。この手術は、教会がフレッド・ホローズ財団(NZ)に外科機器を提供したおかげで可能になったものです。

「目が見えるようになり、主を賛美しています」とジェームズは言います。「わたしには明るい未来があります。」

わたしにできること

- 子供に読み聞かせをする。
- 近所の人を車で医者に連れて行く。
- 栄養豊富な食事の作り方を学び、学んだことを友人や家族と分かち合う。

オーストラリア, フィリピン, 太平洋地域

太平洋地域に住む人々は、台風、洪水、噴火、地震などの自然災害に頻繁に遭っています。多くの場所で、きれいな水と教育が必要とされています。教会は、各種の問題に積極的に取り組んでいます。

自然災害

2023年、太平洋諸国の多くの学校は、台風や洪水による被害を受けました。これに対して教会は、教室の改修に必要な建築資材や家具を提供しました。オーストラリアでは、中央西部地域で壊滅的な洪水が起こった後、教会は再建活動を支援しました。

教育

フィリピンでは、教会は「ワールド・ポッシブル」(World Possible)と協力して、「レイチェルサーバー」と呼ばれるホットスポットをインターネットのない田舎の学校に提供して、生徒が質の高い教育を受けられるようにしました。

きれいな水と公衆衛生

干ばつが続く、海面が上昇したために、島国キリバスでは水の問題が深刻になってきています。離島の水源は塩分を含んでいるため、どんどん飲用に適さなくなっているのです。これにこたえて教会は、CDE スエズ・パシフィックと協力して、5つの島にある5つの村落に海水淡水化工場を設計・設置し、今後数年間5,000人の住民に安全な飲料水を提供できるようにします。



オーストラリアの奉仕プロジェクトに参加する若い女性。

カリブ海諸国

2023年、教会はカリブ海地域では医療と雇用に重点を置いて支援しました。

医療

ドミニカ共和国では、教会が提供する奨学金のおかげで、24人の学生が臨床技士の訓練を受けることができました。教会はまた、サンタクルス・デ・マオにある地域産科病院に超音波検査機を提供し、妊婦の診察をレベルアップできるようにしました。

雇用

失業に対処するために、教会はイノバタイ財団と協力して、ドミニカ共和国の教会員にビジネスの運営方法を教えました。このプロジェクトの一環として、参加者は6か月間の指導を受け、ビジネスを発展させるために個別に支援を受けられるようにしました。

援助を受けて希望を得る

マルガリータは人生で多くの嵐を乗り切った挙句、プエルトリコの自宅がハリケーン・フィオナの被害に遭いました。そして高齢のため、その状況で家を出て必要な品物を買うのは困難でした。

幸いにも、地元のボランティアが、石鹸やシャンプー、歯磨き粉その他のアイテムを詰めた衛生キットを持って来てくれました。プロジェクト・ホープが教会から提供された資金で作成したこの衛生キットは、マルガリータのような高齢者や社会的弱者を助けるために用意されました。

医療プロジェクト 28件

緊急支援プロジェクト 26件

教育プロジェクト 22件

わたしにできること

- 地域社会の非営利団体でボランティア活動をする。
- 地元の市民指導者と会い、公衆衛生の優先事項についてさらに学ぶ。
- ビジネスを始めることに関して、教会の自立グループの一つを友人に紹介します。

「末日聖徒イエス・キリスト教会は、命を救う健康と栄養サービスで世界中の子供たちに手を差し伸べるというユニセフの使命を支援するという揺るぎない決意を示しています。」

—マイケル・J・ナイヌイス、
アメリカ合衆国ユニセフの社長兼 CEO



医療処置を行う準備をするドミニカ共和国の外科医。



左：幼い子供たちに栄養のある食事を与えるボリビアの家族。右：ペルーで奉仕プロジェクトを手伝う男性。

教育プロジェクト 39 件

緊急支援プロジェクト 33 件

医療プロジェクト 75 件

中央アメリカと南アメリカ

2023 年、中央および南アメリカにおける教会の人道支援活動では、おもに緊急時の対応、教育、医療の支援を重点的に行いました。

自然災害

そのほかの取り組みとして、教会は地元の指導者と協力して、ブラジルのサンパウロで起きた洪水や地滑りの被災者を支援しました。寄付されたのは、マットレスその他の寝具、衛生用品、清掃用の資材などでした。教会員もきわめて重要な役割を果たしました。積極的に志願して、助けを必要としている人々にこれらの物資を確実に届けたのです。

同様に、チリ全土で複数の山火事が発生したとき、教会は援助を提供するために結集しました。地元の地域社会がかれきを取り除くのを助けるツールを提供することに加えて、地元の教会指導者は、手筈を整えて、破裂した水道管を修復しました。教会員はまた、集まって食料やおむつ、食品、洗面道具の寄付を集め、山火事の被災者に送る準備をしました。

教育

ウルグアイのモンテビデオでは、何百人もの若い教会員が、田舎の学校で生徒のために学用品のキットを用意することを志願しました。この取り組みは、地域全体の出席率と学業成績を向上させるのに役立ちました。

教会はまた、教室を改装し、生徒の学習促進のために寄付された備品を提供しました。例えばパナマでは、教会は何百台ものコンピューターを教育省に寄付し、何百人もの生徒がオンライン学習の機会にあずかるようにしました。

わたしにできること

- 自然災害の被災者を支援する地元の非営利団体でボランティアをする。
- 地元の学校に学用品を寄付する。
- JustServe.org を調べて、地元地域の病人を助ける機会を見つける。



左：眼鏡を受け取るエルサルバドルの生徒たち。右：チリで山火事の後片付けを手伝う男性。

医療

2023年、中央および南アメリカの教会員は、地元の病院や患者を支援するために、献血運動に参加しました。教会はまた、その地域全体の医療機関や医療イニシアチブに機器や訓練、そのほかの支援を提供しました。例えば、エルサルバドルでは、教会はサンタアナ国立インスティテュートと協力して、何百人もの生徒に眼鏡を提供しました。

目標を達成するための道具

何年もの間、グアテマラ出身の若い女性シャーリーは、自分の車椅子を購入するお金がありませんでした。そのため、借りた車椅子を使わざるを得ず、残念ながらそれは自分の状態や体に合いませんでした。

しかし、2023年にすべてが変わりました。グアテマラの末日聖徒イエス・キリスト教会とファンダビエンの協力のおかげで、シャーリーは自分の必要に合わせた車椅子を受け取ることができたのです。「車椅子は……わたしの目標を達成するための道具になります」とシャーリーは言っています。¹⁵



ペルーで奉仕プロジェクトに参加する若い男性。

「中央アメリカ、南アメリカ、アフリカにおけるプログラムを支援することにより、教会は、水と衛生サービスの持続可能な配達モデルを証明する最も影響力のあるパートナーの一つとなってきました。」

ーサムソン・ハイル・ベケレ、
ウォーター・フォー・ピープルの共同最高経営責任者

緊急支援プロジェクト 79 件

避難した人を支援することに焦点を
当てた緊急プロジェクト 37 件

その他の社会的弱者の支援に焦点
を当てたプロジェクト 242 件

心身のケアが違いを生む

紛争でウクライナの町が破壊され、オルガと家族は家を追われました。この経験は家族の心身の健康に大きな打撃を与えましたし、オルガたちにはアパートを借りるお金もありませんでした。幸いなことに、彼らは「人権のための医師団」(Physicians for Human Rights) と末日聖徒イエス・キリスト教会との協力を通して助けを受けました。

このプロジェクトを通して、オルガは必要な医療と心理的な治療を受けることができ、避難所に入ることもできました。「わたしたちを心にかけて、助けてくださるすべての人に心から感謝しています」とオルガは言っています。

ヨーロッパ

2023 年、ヨーロッパにおける教会の人道支援活動のおもな目的は、市民紛争に巻き込まれた人々や自然災害の被災者たちを助けることであり、多くの場合、心身の健康管理はもとより、避難所その他の基本的な支援が必要とされていました。

緊急時の対応

2月の大地震による被害の後、教会はトルキエの災害・緊急事態管理機関および厚生省と協力して、生存者たちに広範な支援を提供しました。この協力の結果、5つの移動式病院と500のコンテナハウスが設置され、何千人もの人や家族を助けるために食料や水、衛生用品が提供されました。

社会的弱者への支援

2023 年、ヨーロッパの一部の地域では、紛争や個人的な問題のために、住居の維持が難しくなっている人が増加しています。教会はホームレス対策のプロジェクトを幾つか行いましたが、その中には、困っている人々に衣類や食料を提供するプロゲト・アルカと協賛で行ったイタリアでのプロジェクトもありました。このプロジェクトでは移動式キッチンが活躍し、7つの町で困っている人たちに温かい食事を提供することができました。

心身の健康

ウクライナでの紛争が続く中、教会は暴力と暴動の被害者に心理的な応急処置と情緒的治療を提供しました。ポルトガルの教会ボランティアも、乳がんの研究を支援するアウェアネス・リボンを作りました。ロシアで教会は、視覚障害のある子供や言語障害のある子供たちを支援する機器を寄付しました。

わたしにできること

- 地元にいる社会的弱者に何が必要なのかを知る。
- 生活で苦勞しているかもしれない友人や隣人を慰める。
- 地域社会の清掃プロジェクトにボランティアとして参加する。



左：カウンセラーから情緒的支援を受けるウクライナ難民の一群。写真／MEDUの厚意により掲載。右：食べ物や衣服を受け取るために列に並んで待つ、ローマのホームレスたち。写真／Progetto Arcaの厚意により掲載。

中東

2023年、末日聖徒イエス・キリスト教会はガザおよびイスラエルの複数の国際救援機関と協力して、ほかの何よりも大切な、医療措置とメンタルヘルスケアに財政援助を行いました。さらに、教会は中東全域で、医療や雇用の支援、社会的弱者への支援など、様々なニーズに対応する取り組みを行いました。

医療

イラクのクルディスタン地域では、教会は引き続き看護助産師・開発センターを支援しました。この意欲的な共同プロジェクトは、地域の新生児と妊婦を対象とする医療技術を向上させるために、看護師と助産師を訓練し、支援することを目的としています。このプロジェクトは、地域社会を強めるうえで女性が果たす重要な役割を強調しています。

雇用

2023年、教会は中東での雇用活動を支援する取り組みを、引き続き行いました。例えば、教会はYWCA（キリスト教女子青年会）と協力してヨルダンの高い失業率を下げる努力をしました。この協力を通して教会は、職業訓練プログラムに資金を提供しました。この訓練プログラムでは、ヨルダンの住民と国内の多くのシリア国民が、貿易を学んで就職できるよう支援しました。

社会的弱者への支援

モロッコの教会人道支援は、社会から見過ごされがちな社会の片隅にいる人々に大きな影響を与えています。2023年にはほかにも、教会は、パズレル自閉症センターに、野外活動スペースと宿舎を提供しました。このセンターでは、自閉症の青少年の自立を助け、農業やスポーツ、音楽、芸術の専門的な技術を身につけられるように自閉症の青少年を教えています。これらの取り組みは、センターに入所している青少年の就職率を押し上げ、生活の質を上げています。

女性と子供たちを助けることに焦点を当てたプロジェクト 53件

医療プロジェクト 25件

緊急支援プロジェクト 78件

わたしにできること

- 赤ちゃん用の毛布を地元の病院に寄付する。
- 衛生と公衆衛生について地域社会の子供たちに教える。
- 地域社会の中に駆け込み寺を必要とする人を支援する定住センターでボランティアを行う。

パキスタンにおける洪水からの復興

洪水がグーラムの住むパキスタンの村に迫ってきたとき、グーラムとその夫は、家から何も持ち出すことができないことを知りました。グーラムは妊娠していましたし、夫には障害があったため、唯一の収入の手段であった家畜を救うこともできませんでした。

末日聖徒イエス・キリスト教会は、アメリカ合衆国シェルターボックス (ShelterBox USA) とイスラム救援活動と協力して、洪水で被災したグーラムやその他の家族に助成金を現金で手渡しました。この助成金を得て、グーラムは復興への道を歩み始め、食べ物や衣服、やぎを買って家業を再開しています。



洪水で家を追われ、避難所に集まるパキスタンの家族。写真/ShelterBoxの厚意により掲載



左:アメリカ先住民の居留地に住む人々のために薪を積み込む若い男性の指導者たち。右:カリフォルニアでホームレス用のシェルターを用意するボランティアたち。

女性と子供たちを助けることに焦点を当てたプロジェクト 200 件

避難所と住居プロジェクト 170 件

きれいな水と食料安全保障プロジェクト 261 件

わたしにできること

- ホームレスの状態にある人に食事を持って行く。
- 近隣でフードドライブを主催する。
- 地域社会における女性と子供に何が必要かを知る。分かった事柄を友人や家族に話す。

北アメリカ

2023 年に北アメリカで行われた多くの人道支援プロジェクトの中で、教会はホームレス、食料の確保が難しい人、虐待の被害者、自然災害の被災者を助けるために、広範囲にわたる取り組みを行いました。

住まいの提供

カナダで教会は、この種の施設では国内で最も古いものの中に数えられるホームレス保護施設、オールド・ブルーリー・ミッション (the Old Brewery Mission) に資金を寄付しました。この寄付のおかげで、同施設の設備とサービスを現代的なものに変えることができ、より安全で健康的な環境になって、住民のプライバシーと尊厳が守られるようになりました。今後、改装されたシェルターは、夜に 197 人を収容できるようになります。

また、教会は複数の組織と協力して、難民申請や亡命申請をしている人が再定住できるよう助けました。協力した組織には、米国カトリック司教協議会、国際救済委員会、難民・移民アメリカ委員会、多くの地元機関などがあります。地元の一つの機関アル・マスバアと協力して、教会はカリフォルニア州サクラメントで床に直に寝ていた難民のために、500 枚のフォームマットとその他の物資の購入を支援しました。

食料と水

メキシコで教会は、「希望の礎」(Building Hope Foundation)と協力して、約 40 家族の小さなコミュニティであるバチュキヤに二つの雨水用排水システムを設置しました。排水口、フィルター、貯蔵タンクを含むこれらの新しいシステムにより、家族は裏庭のきれいな水と灌漑を利用できるようになります。



左：ケベックのオールド・ブルーリー・ミッションで夕食を提供するボランティアたち。右：シカゴ市を挙げてのコミュニティ・ベビー・シャワーでの女性と赤ちゃん。

アメリカ合衆国では、困っている人のために食料品を購入することができるようにするために、教会はフィーディング・アメリカに資金を寄付しました。教会はまた、国内の主要なフードバンクネットワークにトラック数百台分の物資を寄付しました。

カナダで教会は、ビショップの倉からアルバータ州の慈善団体「マスタードシード」に日用品を寄付し、フォート・サスカチュワンと「デイリーブレッド」のフードバンクに現金を寄付して、彼らの流通能力の向上に寄与しました。

女性と子供

アメリカ合衆国では、400人以上の妊婦と地域社会の資源を結びつけるベビーシャワーを、「チャーチ・オブ・ゴッド・イン・クライスト」(Church of God in Christ)と一緒に提供しました。サウスシカゴの黒人の母親の中で、防げたはずの死が二度と起こらないように闘うことを目指して、教会は「メラネイテッド・ミッドワイブズ」〔訳注：黒人の助産師を増やし、米国における乳幼児と母体の死亡率を下げることを目指す団体〕と協力して出産介助訓練を増やし、危険な状態にある母親を集中治療の受けられる病院に送ることができるようにしています。

虐待や家庭内暴力から女性と子供を守るプロジェクトも行われました。YWCA セーフチョイス・ドメスティック・バイオレンス・シェルターでは、教会が家庭用品や寝具、台所用品、エアコンなどを提供して、困っている女性を収容するシェルターの機能を向上させました。寄付と改修のおかげで、今後数年間で400人以上の人々にサービスを提供できるようになります。

ホームレス生活の克服と恩返し

カリフォルニア出身の女性ネカは、娘と孫たちとともにアパートから退去させられたとき、依存症に苦しんでいました。新しい住まいを探して、「あらゆるところに電話しましたが、だれもわたしたちを入れてはくれませんでした。最後に入れてくれたのが、『ベイエリア・レスキュー・ミッション』だったのです。』¹⁶

末日聖徒イエス・キリスト教会は「ベイエリア・レスキュー・ミッション」と協力して、ネカのような人たちが困難を乗り越えて立ち直るために必要な、仮の住まいや支援を提供します。この助けにより、ネカは、依存症を克服して集中力を取り戻し、さらにはほかの女性と子供たちを助けることによって恩返しをすることまでできると言っています。

「皆さんの心からの貢献は、〔女性と子供たちの〕生活に大きな違いをもたらしました。」

—ステファニー・セウェル,
「ベイエリア・レスキュー・ミッション」開発副会長

感謝の言葉

この1年間、助けを必要とする人々を支援する業に多くの形で携わってきた教会員や友人の皆さんに感謝をお伝えします。世界中で逆境に直面している人々に対する皆さんの思いやりと寛大さがなければ、この業は不可能です。隣人を助ける方法を絶えず探し求めておられる皆さんに感謝しています。

この業にささげられたすべての献金、ボランティアの時間、祈りに感謝しています。どんなに小さな努力であっても、ほかの人々の貢献と相まって、並外れた善を成し遂げることができるのです。皆さんの奉仕により、平安が増し加わり、将来に対する希望が輝き、世界中のすべての神の子供たちに対してさらに慈愛がもたらされることを願っています。



さらに学ぶためのリソース

世界規模の人道支援活動について、また地域社会に参加する方法について詳しくは、以下のサイトを御覧ください。



@Caring.ChurchofJesusChrist

@DeseretIndustriesThrift

@JustServe.org



@Caring.ChurchofJesusChrist

@DeseretIndustries

@Just_Serve



人々を支援するという教会の決意についてさらに学ぶには、Caring.ChurchofJesusChrist.orgをご参照ください。



可能な地域の場合、左のQRコードからJustServeアプリをダウンロードして、お住まいの地域で奉仕プロジェクトを始めましょう。

詳細については、以下のリンクにアクセスしてください。

ChurchofJesusChrist.org | Caring.ChurchofJesusChrist.org | JustServe.org | DeseretIndustries.org | AddictionRecovery.

ChurchofJesusChrist.org

参照文献

1. Patrick Kearon, in "A Conversation with Elder Patrick Kearon" (video), Newsroom, Dec. 8, 2023, <https://newsroom.churchofjesuschrist.org/article/elder-patrick-kearon-called-quorum-of-the-twelve-apostles>.
2. Camille N. Johnson, in "The Church of Jesus Christ Launches Global Effort to Nourish Children and Mothers," Newsroom, Nov. 9, 2023, <https://newsroom.churchofjesuschrist.org/article/the-church-of-jesus-christ-launches-global-effort-to-nourish-children-and-mothers-relief-society>.
3. Kristin M. Yee, in "Thematic Session—SDG 1 No Poverty" ("Why It Matters" : The 1st International Academic Conference on the Sustainable Development Goals, Oct. 6, 2022).
4. ゲレット・W・ゴング「愛の言葉」『リアホナ』2023年11月号, 112
5. Preston Dean, in "Service Missionaries Help People Come to Christ," Newsroom, Mar. 24, 2023, newsroom.churchofjesuschrist.org/article/church-service-missionaries.
6. Gérald Caussé, "The Blessings Will Follow: Benefits of Implementing JustServe" (video), ChurchofJesusChrist.org/study/video/justserve-videos/2020-10-0100-the-blessings-will-follow-benefits-of-implementing-just-serve-1080p.
7. ヘンリー・B・アイリング「靈感に基づくミニスタリング」『リアホナ』2018年5月号, 64
8. ダリン・H・オークス「貧しい人や困っている人を助ける」『リアホナ』2022年11月号, 6 参照
9. Jorge Arnez, in "'Now We Just Open the Tap' —Bolivian Community Finally Gets Water Through Church's Help," Newsroom, Aug. 16, 2023, newsroom.churchofjesuschrist.org/article/now-we-just-open-the-tap-bolivian-community-finally-gets-water-through-churchs-help.
10. W. Christopher Waddell, in "Recent \$37 million in Church donations come after a year of unprecedented giving and service," Church News, Sep. 28, 2022, [thechurchnews.com/global/2022/9/28/23365257/humanitarian-donations-giving-aid-emergency-response-welfare-service-justserve](https://www.thechurchnews.com/global/2022/9/28/23365257/humanitarian-donations-giving-aid-emergency-response-welfare-service-justserve).
11. ラッセル・M・ネルソン「今がその時である」『リアホナ』2022年5月号, 126
12. L. Todd Budge, "The Divine Gift of Creation: Our Sacred Duty to Care for the Earth," Newsroom, newsroom.churchofjesuschrist.org/article/bishop-l-todd-budge-sacred-duty-care-for-earth.
13. Camille N. Johnson, in "Church Gives \$32 million to World Food Programme in Largest One-Time Donation to Date," Church News, Sept. 14, 2022, [thechurchnews.com/global/2022/9/14/23353487/church-gives-32-million-dollars-to-world-food-programme-largest-one-time-donation-to-date](https://www.thechurchnews.com/global/2022/9/14/23353487/church-gives-32-million-dollars-to-world-food-programme-largest-one-time-donation-to-date).
14. J. Anette Dennis, Facebook, Jun. 20, 2023, [facebook.com/RS1stCounselor](https://www.facebook.com/RS1stCounselor).
15. Shirley C., in "Church Donation Provides Mobility and Independence to Guatemalans," Newsroom, Feb. 7, 2023, newsroom.churchofjesuschrist.org/article/church-donation-provides-mobility-and-independence-to-guatemalans.
16. Nneka, "The Prodigal Grandmother," Bay Area HOPE: A Publication of the Bay Area Rescue Mission (Summer 2023), Summer 2023, 2.
17. ラッセル・M・ネルソン「大切な第二の戒め」『リアホナ』2019年11月号, 97
18. Susan H. Porter, in "Presidents Johnson and Porter Meet with Government Leaders on Women's Issues in South America," Newsroom, Sept. 23, 2022, newsroom.ChurchofJesusChrist.org/article/presidents-johnson-and-porter-meet-with-governmentleaders-on-womens-issues-in-south-america.

「多くの場合、わたしたちの行動をほかの人々は見えていませんし、知りません。しかし、神は御存じであり、わたしたちが目に見えない静かな方法で奉仕するときに祝福してくださるのです。」

—中央初等協会会長 スーザン・H・ポーター会長

「主の民と呼ばれたいと心から願っており『互いに重荷を
負い合うことを望み……悲しむ者とともに悲しみ，慰
めの要る者を慰めることを……望んでいる』のです。」

—ラッセル・M・ネルソン大管長
末日聖徒イエス・キリスト教会大管長¹⁷

